

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立鯰江東小学校

令和 7 年 4 月

大阪市立鯨江東小学校 令和7年度 運営に関する計画

1 学校運営の中期目標（令和4年度から7年度末）

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査において全教科で課題がみられる。特に、全教科で2極化の傾向が認められ、さらなる「わかる授業」づくりが必要である。
- I C T機器の活用を図った授業づくりに取り組んできた。
- 全国学力・学習状況調査の意識調査では各設問に対して「当てはまる」と積極的な回答をしている児童の割合の低い項目が多く、学習や自分についての自信のなさがうかがえられる。
- 学習規律や家庭学習の習慣は身についてきている。しかし、家庭での生活は、携帯電話の使用やゲームの使用の両項目で、多くの時間を使っている児童が多い。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、総合的な運動能力に課題がある。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における運動に関する意識は、男女ともに否定的な回答が目立つ。運動することが嫌い・苦手と思っている児童が多いのも課題である。
- いじめや不登校の問題において、解決すべき課題はあるが、保護者や関係機関と連携して取り組んでいる。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

- 令和7年度の小学校経年調査「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を90%以上にする。

【1：安全・安心な教育環境の実現】

- 令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を90%以上にする。

【2：豊かな心の育成】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校経年調査における大阪市の総合正答率合計に対する総合正答率の割合が7割以下の児童の割合を、いずれの学年も令和4年度より5ポイント減少させる。

【4：誰一人取り残さない学力の向上】

- 令和7年度の全国体力・運動習慣調査において、体力合計点が大阪市平均を超すようにする。

【5：体力・運動能力向上のための取組の推進】

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度にむけてプロジェクターから液晶モニターに移行し、対話的・協働的な学習形態を進めることで、各種アンケートによる「授業の内容がよくわかる」「学習が楽しい」といった内容肯定的な回答が80パーセントを超えるようにする。

【6：教育DXの推進】

- I C T機器の活用を図り校務における教職員の負担軽減に努め、本校の「時間外勤務時間」を令和3年度3月分より減少させる。

【7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

【1：安全・安心な教育環境の充実】

- ・年度末の校内調査において不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

【1：安全・安心な教育環境の充実】

- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を前年度より増加させる。

【1：安全・安心な教育環境の充実】

学校園の年間目標

- ・年度末の校内調査の「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を90%以上にする。

【2：豊かな心の育成】

- ・年度末の校内調査の「学校ではすすんで挨拶をしていますか」の項目において、「はい」と答えた児童の割合を80%以上にする。

【2：豊かな心の育成】

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【4：誰一人取り残さない学力の向上】

- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

【4：誰一人取り残さない学力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の学習は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

【4：誰一人取り残さない学力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。

【5：健やかな体の育成】

学校園の年間目標

- ・全国体力・運動能力習慣調査において、長座体前屈・ソフトボール投げの平均の記録を、前年度より向上させる。

【5：健やかな体の育成】

- ・校内児童アンケートにおいて自分の健康に関心をもつ項目の肯定的な回答の割合を80%以上にする。（清潔検査に加え、歯・口の中の衛生にも関心をもたせるアンケート項目をいれる）

【5：健やかな体の育成】

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）・学校園の年間目標

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ・デジタル教材や協働学習支援ツールを活用した学習を週1回以上実施する。

【6：教育DXの推進】

- ・教職員一人一人の時間外勤務時間が1か月45時間以下になった教職員の割合を50パーセント以上にする。

【6：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

大阪市立鯨江東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 <p style="text-align: right;">【1：安全・安心な教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 <p style="text-align: right;">【1：安全・安心な教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を前年度より増加させる。 <p style="text-align: right;">【1：安全・安心な教育環境の充実】</p> <p>学校園の年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査の「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を90%以上にする。 <p style="text-align: right;">【2：豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査の「学校ではすすんで挨拶をしていますか」の項目において、「はい」と答えた児童の割合を80%以上にする。 <p style="text-align: right;">【2：豊かな心の育成】</p>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1：安全・安心な教育環境の充実】</p> <p>○ 児童の実態を把握し、いじめなどの早期発見に努め、その解消に取り組む。</p> <p>指標</p> <p>○月1回の生活指導部会において、いじめなどの事案について話し合い、本校のいじめ防止基本方針にのっとり、その解決に向けた学校環境づくりに取り組む。</p> <p>○校内アンケートにおける「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な選択肢の「はい」と回答する児童の割合を90%以上にする。 (選択肢は「はい」「いいえ」の2択とする。) また、否定的な選択肢の「いいえ」と回答した児童については全員に対してなぜそのように回答したのか確認の上必要に応じて指導を行う。</p>	
<p>取組内容②【2：安全・安心な教育環境の充実】</p> <p>○「学校のきまり・規則」を常に児童が意識し、実践するように日々指導を行う。</p> <p>指標</p> <p>○校内アンケートを実施し、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を90%以上にする。</p>	

<p>取組内容③【3：豊かな心の育成】</p> <p>○自尊心の向上に取り組むと共に、互いに思いやる心を育て、自分のことを肯定的にとらえることができる児童の増加に努める。</p>	
<p>指標</p> <p>○児童に対する校内アンケートの、「自分には好きなところがありますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【4：安全・安心な教育環境の充実】</p> <p>○不登校児童対策において、保護者や関係機関と連携した取り組みを進め、不登校児童の割合を、前年度より減少させる。</p>	
<p>指標</p> <p>○年2回の児童理解研修会をもち、児童の状況を適切に把握し、保護者や関係機関と連携して状況に応じた多様な取組みを行う。</p> <p>○児童の状況把握をするための不登校児童対策委員会を月1回職員会議の場に設ける。</p>	
<p>取組内容⑤【5：豊かな心の育成】</p> <p>○異学年によるグループ活動や行事を通して、お互いの気持ちの交流を図り、協力することの大切さを学ばせる。</p>	
<p>指標</p> <p>○児童に対する校内アンケートの「たてわり班活動やつどい組等を通して、友だちや違う学年の人とも仲良くできていますか」の項目について、最も肯定的な回答をした児童の割合を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑥【6：豊かな心の育成】</p> <p>○挨拶は人とのつながりがうまれることを児童に指導することを通して進んで挨拶ができる児童を育成する。</p>	
<p>指標</p> <p>○校内アンケートの「『ありがとう』という言葉で家族や友だちに感謝の気持ちを伝えることができましたか。」の項目を「はい」と答えた児童の割合を85%以上にする。</p> <p>○校内アンケートの「『学校の先生やクラスメイト』『地域の見守り隊』『学校へのお客様』に対して進んで挨拶をしていますか。」において、肯定的な回答をした児童の割合を90%以上にする。</p>	

大阪市立鯨江東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 <p style="text-align: center;">【4：誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 <p style="text-align: center;">【4：誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 <p style="text-align: center;">【4：誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。 <p style="text-align: center;">【5：健やかな体の育成】</p> <p>学校園の年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国体力・運動能力習慣調査において、長座体前屈・ソフトボール投げの平均の記録を、前年度より向上させる。 <p style="text-align: center;">【5：健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内児童アンケートにおいて自分の健康に関心をもつ項目の肯定的な回答の割合を80%以上にする。（清潔検査に加え、歯・口の中の衛生にも関心をもたせるアンケート項目をいれる） <p style="text-align: center;">【5：健やかな体の育成】</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【7：誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○社会科を中心に教員の指導力向上に取り組む。</p> <p>○算数科における計算力を高める指導に取り組む。</p>	

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教員は年間1回以上の研究授業を行い、指導力の向上を図る。 ○校内児童アンケートにおける「学習でわからないことにも自分からすすんで取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ○校内児童アンケートにおける「計算が速くできるようになった。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 	
<p>取組内容②【8：誰一人取り残さない学力の向上・6：教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」を目指した学習に努める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習者用端末や大型モニターなどのICT機器を活用した授業を週平均3回以上実施する。 ○学習の中に、「一人学び」や「ペア、小集団で話し合う」場を設定し、主体的で対話的な学びを週に3回以上実施する。 ○校内アンケートにおける「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、3年生以上を対象に肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 	
<p>取組内容③【9：健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの体力・運動能力向上のために取り組みの充実を図る。 ○年間を通して柔軟性や投げる力の向上にむけた取り組みを行う。 ○子どもの体幹を鍛えるための取り組みの充実を図る。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題のある「柔軟性」を高めるために、「長座体前屈」の記録を取り、5月の結果よりも2ポイント上昇させるために、継続的な取り組みを行う。 ○課題のある「投げる力」を高めるために、「ソフトボール投げ」の記録を取り、5月の結果よりも2ポイント上昇させるために継続的な取り組みを行う。 ○校内アンケートの「運動することは好きですか」の項目において、最も肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。 	
<p>取組内容④【10：健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手洗いや口腔内衛生を保とうとする習慣が身につくように、自分の健康に关心をもたせる指導を行う。 ○食事の大切さに关心が持てるよう、食に関する指導を計画的に行う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保健委員による週1回の清潔調べで、「ハンカチ、ティッシュを持って来ている」と答える児童の割合をどの学級も80%以上にする ○歯科の要受診者の治療受診率を80%以上にする。 ○校内児童アンケートの「朝ごはんを食べていますか」の項目において、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。 	

大阪市立鯨江東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）・学校園の年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く〕 デジタル教材や協働学習支援ツールを活用した学習を週1回以上実施する。 <p>【6：教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員一人一人の時間外勤務時間が1か月45時間以下になった教職員の割合を（50）%以上にする。 <p>【7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6：教育DXの推進・9：家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】</p> <p>○低学年は、新たな端末に慣れ親しみ、3年生以上は、デジタル教材や協働学習支援ツールを活用する。</p>	
<p>指標</p> <p>○校内アンケートを実施し、低学年は「タブレット端末での学習に取り組みましたか。」の肯定的回答を80%以上にする。3年生以上は「協働学習支援ツールを利用して自分の考えを深めることができましたか。」の肯定的回答を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○教職員一人一人の時間外勤務時間が1か月45時間以下になるようにする。</p>	
<p>指標</p> <p>○教職員個人が持ち帰りの仕事を含めて、45時間以下の勤務外労働時間になるようにする。また、その教職員が全体では50%以上にする。</p>	